

会 議 記 録

次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第3回瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン（仮称）策定懇談会
開催日時	平成27年11月13日（金） 10時00分～11時58分
開催場所	高松市男女共同参画センター 第8会議室
議 題	(1)瀬戸・高松広域連携中枢都市圏（仮称）における取組内容等について (2)その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	井原会長、嘉門副会長、板倉委員、神内委員、滝川委員、常川委員、徳増委員、三井委員、宮本委員、森山委員、好井委員
傍聴者	1人（定員5人）
担当課及び連絡先	政策課（839-2135）

会議経過及び会議結果

会議の概要は、次のとおり

議題(1)瀬戸・高松広域連携中枢都市圏(仮称)における取組内容等について

【別添資料により、瀬戸・高松広域連携中枢都市圏（仮称）における取組内容等について事務局から説明】

(会長)

事務局からの説明があった中で、まずは質問があればお願いしたい。

(委員)

資料4にある推進委員会とは、どのような組織か。

(事務局)

推進委員会の構成メンバーは、圏域の各市町の市長又は町長と議会の議長である。連携中枢都市圏へ向けての各段階で確認や決定をいただく機関である。

本ビジョン懇談会はビジョン策定について、様々な御意見をいただくところである。

資料2に推進委員会の規約、懇談会の設置要綱等を掲載している。

(会長)

本懇談会は、ビジョン策定について責任を持って行う推進委員会とは違い、策定に資する意見を自由にアドバイスするというものである。

会議経過及び会議結果

(委員)

資料2のビジョンの策定の趣旨がまだできていない。趣旨が分からないままでは、議論が出来ない。また、それぞれの連携市町の方も、この懇談会で一緒に議論すべきではないかと思う。

(事務局)

制度的なことを言うと、連携中枢都市宣言は高松市が行い、協約については、1対1で行う。来年度からの8年間で取り組む項目を高松市と2市5町がそれぞれ協議してきた結果が、資料1の一覧表である。最終的にビジョンとしてとりまとめを行うが、ビジョンを策定するのは高松市である。ビジョンの策定については、連携市町と協議をしながら進めるが、そのビジョンに対して外部の有識者から意見をいただくということが制度設計されている。それが、本懇談会である。従って、形式的には、ビジョン策定は中心となる高松市が行い、それに意見をいただく組織も高松市が設置することとなっている。2市5町の方には、懇談会でどのような意見が出ているかを知っていただくために、業務に支障のない範囲で出席をお願いしている状況である。

(副会長)

形式的なことは承知している。本懇談会では、連携市町とイコールウェイトで議論した方が、より議論が進むのではないか。連携市町がそれぞれ推薦する方を、このメンバーに入れるということは難しいのだろうか。

(事務局)

高松市の懇談会委員だけではなくて連携市町のしかるべき立場の人を含めて議論して双方の感覚を合わせて、良い方向に進んで行ければという御指摘で、確かにそうだと思う。どのような形がとれるのかについて検討してみたい。本日お示している資料にあるように、12月議会で連携協約の議決をいただくということで、高松市はもちろん2市5町においても議決をいただくことになる。議決により基本的なものの考え方や、連携の範囲を定めた上で、具体的な連携項目をビジョンという構想の中で定めるという仕組みになっている。このビジョン自体は毎年見直しを行うことになっているので、今、いただいた御意見は、今後どのようにビジョンを広げていくのかという際に役立てていける御意見であるとも思う。今は預らせていただきたい。

(委員)

資料1の中の「経済を活性化し」とあるのは、具体的にはどの程度活性化して、現状よりどの程度改善されるのか、さらには、「圏域全体の魅力」とはどのようなイメージのものか。もう1点は、教育・文化・スポーツの取組の史跡天然記念物屋島保存・整備事業（讃岐ジオパーク認定支援事業）についてであるが、ジオパークについては、2年程前に香川大学が、県下全体の市町を集めて、連携の協定を結んでいるのではないかと思う。あえて、ここで屋島だけを取り上げたことには意味があるのか。以上2点についてお聞きしたい。

(事務局)

御承知のように地方創生という流れの中で、どの地方自治体も知恵を絞っている。本日の説明の中で、具体にお示しできてはいなかったが、2060年の人口ビジョンを策定することになっている。そこで、目標値とい

うのは、それぞれの事業の中でも出てくることになると思うが、全体を包括する共通のわかりやすい目標値としては、人口をどこまで落とさず維持できるかということになると考えている。

また、資料に項目として上げているものは、それぞれの自治体の判断の上で、まずはこの連携中枢の枠組みでスタートしていききたいというものである。

(会長)

取組体型のウ圏域全体の生活関連機能サービスの向上のA生活機能の強化に係る政策分野の項目が a、b、c、d、f となっているが、e の取組が無いのは何故か、また、C 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野については、国の要綱ではさらに a～d の分類がされているにもかかわらず、その分類をしていないのは何故かを説明していただきたい。さらに、事業ごとに連携する市町にばらつきがあることに対してはどのように考えているのか。

(事務局)

まず、e の項目がないことについては、アルファベットは国の要綱と対比しやすいように記載する中で、e の項目（土地利用）に該当する取組がなかったためである。また、C の項目に小分類をしていないことについては、今後、小分類の項目に対応する事業を増やしていく中で検討したい。

また、事業ごとに連携市町の数にばらつきがあることについては、1つ1つの事業ごとに、1対1の連携をしていくことが広域連携の制度の中で認められており、それを大事にしていくということの良いのではないかと考えている。今後、その枠組みからどう発展させていくかは、これから考えていくことである。

(会長)

質問は一通り終わったようであるので、ここからは意見や助言・アドバイス等をいただきたい。

(委員)

資料1、ウ、Cの項目には、他の項目に掲載している事業を再掲として掲載すべきものがあるように思われる。

また、資料2の13、14ページ中、「生徒数」とあるものは「学生数」と表記する方が正しい。

(副会長)

現状の大学等の学生数を記載している資料のデータに、募集定員数を記載している大学がある。募集定員数は、実際の学生数とは異なるので、修正が必要である。

(委員)

資料1、ウ、A1、a 地域医療で、島しょ部への医師派遣事業が掲載されている。派遣する側の高松市立病院自体の医師確保が困難になっている実体を把握して掲載されている事業なのか。

(事務局)

現在も市民病院から医師を派遣している。

(委員)

その継続が今後もできるのだろうかということである。

(事務局)

市民病院は、地域医療への支援という役割も担っている。医師派遣については、自院の医師確保が難しい状況にはあるが、診療科によっては対応できるということもあり、現に派遣をしている。今後も持続できるようにしていきたい。

(委員)

圏域マネジメント能力の強化の事業の地域コミュニティーの人材養成事業を進めてもらいたい。

(委員)

圏域の将来像と目標の作成に当たっては、これまでの懇談会で出たキーワードと次回の推進委員会での各首長、議長からの意見をしっかり反映させて作成していただくと良いものができる。

(委員)

仕事だけではなく、人生観を含めてのキャリア教育を連携して進めることができれば良いと思う。

(委員)

連携の在り方として、中心市と連携市町が対等な立場で取り組んでもらいたい。

観光の取組として、例えば「松平家」をキーワードに、玉藻城、栗林公園、仏生山法然寺をつないだ、物語を感じるようなツアーがあれば良いのではないか。

3市5町の住民がお互いのことをよく知らないのではないかと感じたことがあり、まず、互いに魅力を知り合うことが大切だと思う。

(委員)

子育て支援の取組が重要であると思う。現在、高松市で連携市町の保育所の空き状況が分からないので、連携市町の保育所でも入れるように情報交換をしっかりして欲しい。また、保育士が不足しているので、これについても連携市町と情報交換をしながら、その確保に取り組んでもらいたい。

また、中山間地域では、鳥獣被害により人が離れている。中山間地域の活用について何か連携して取り組めないだろうか。

もう1点、公共交通機関についてであるが、大窪寺にはほとんどの人が車で行くが、実は、コトデン志度線に乗っていけば、コミュニティバスがでていて。こういったことを知らない人が多いので、できれば情報提供を共同で行うことを検討してはどうか。

(委員)

総務省の連携中都市圏の要綱を配布しておいた方が分かりやすい。

また、全国で取り組まれているが、ビジョンが出そろってみれば、課題や取組内容というのは、結局どこも同じようなものになると思う。そこで、重要になるのは、将来像と推進体制に、この圏域らしさを出すことである。「島、街、里が織りなす」というところは、これまで何年間も議論を続けてきたものなので、これをいかした将来像を示していただきたい。

連携中枢都市圏から新たに加わった、「圏域全体の経済成長のけん引」

の取組項目が少ない。市役所内の組織でこれ以上アイデアを出すことは、実際難しいと思うので、商工会議所や連合会、中央会などの組織や大学の経済学部などの方も含めてアイデアを出してもらえるよう工夫できればと思う。

例えば、豊島では早くから民泊に力をいれている方がいて、理想的なゲストハウスがある。高松でもこの2、3年で数件ゲストハウスオープンし、高松市ならではの良いポジションのゲストハウスが生まれている。高松市周辺の市町でも、ゲストハウスをオープンしたいという人がいると聞いている。これを後押しするような施策が、観光施策の1つのポイントになる。

(会長)

ここでのキャッチフレーズは海域だと思う。陸続きでないというところや島から見ての発想などがあれば、とても面白いものが出来上がると思う。

(委員)

経済成長の分野だけでなく、地域包括ケアなど、高齢者への施策も積極的に行ってもらいたい。

(委員)

事業数78というのは多すぎる。もう少し整理してはどうか。定住自立圏よりも連携中枢都市圏は経済成長に重点をおいているが、それは国の方針であって、連携地域に応じたプランを策定すべきである。それぞれの市町の特徴ある施策を連携して支援すると良いのではないか。

また、連携して取り組みやすいことから、情報ネットワークの整備を進めてはどうか。圏域内のどこでもフリーWi-Fiが使えるようになれば、外国人観光客の誘客にもつながる。もともと、この地域は居住性が良いので、情報ネットワークが整備により、移住者の増加も期待できる。

(会長)

地域の独自性を盛り込んでいかなければ、埋没してしまう。その力量が問われている。

議題(2)その他

【今後のスケジュールについて事務局から説明】

(会長)

本日の会はこれをもって終了する。